令和４年度　第１回牛久市健康づくり推進協議会　議事録概要

日　時：令和 4 年 11 月 4 日（金）午後 1 時 30 分～午後 3 時 50 分
場　所：牛久市地域医療連携センター
出席者：委員：21 名中 17 名出席

委員名	出欠	委員名	出欠	委員名	出欠
泉　憲治	出	河村　智教	出	宮本　克樹	出
山﨑　陽介	出	浅香　廣子	出	石井　隆太郎	欠
橋場　成忠	出	井出　文彦	出	磯山　和男	欠
五十嵐　有希子	欠	吉田　敏子	出	岡見　清	出
永山　静子	出	石田　久美子	出	染谷　郁夫	欠
岩井　浩一	出	加納　尚美	出	望月　諭	出
佐藤　幸子	出	渡部　功	出	石川　次枝	出

事務局：保健福祉部長　内藤雪枝　　保健福祉部次長兼健康づくり推進課長　渡辺恭子
健康づくり推進課職員　飯泉麻由美・山越和子・酒井葉子・森まどか
医療年金課職員　多田明紗美

協議会内容：
１．開会の言葉（司会：渡辺次長）
２．あいさつ（保健福祉部　内藤部長）
３．委嘱状交付
４．委員自己紹介
５．職員紹介
６．委員長等選出（委員長：岩井浩一委員　　副委員長：宮本克樹委員、佐藤幸子委員）
７．うしく健康プラン 21　第 3 次について
８．議事録署名人の指名･･･井出文彦委員、望月諭委員
９．議事（議長：岩井浩一委員長）
（１）報告事項
①牛久市の概況について
②牛久市国民健康保険の医療及び健診の状況について
③健康づくり関連事業状況調査および事業実績報告
④今後の会議予定

委員からのご意見
①牛久市の概況について
・女性の糖尿病の標準化死亡比が年によってばらつきがあるのはどうしてか？（平成 27 年から令和 1 年は 0.49 で、平成 20 年から 24 年は 1.02）男性の方はばらつきがない。
→糖尿病に加え、心疾患や脳卒中などの疾患がある場合、それらの疾患が直接死因となり、その絶対数が多くなると考えられる。糖尿病が直接的死因の方が少ないため、小さい数字での統計となると、ばらつきが生じる可能性がある。（委員より）
・当日資料 3 で幸せだと思う人、幸せだと思わない人のそれぞれの健康感（健康だと思うか）を年代別にまとめている。幸せだと思う人 907 人に対し、幸せではないと思う人が 87 人ということで、健康感の比率

は出ているのが、母数が違うので、階層別にχ二乗検定などで背景まで探れると良い。「幸せだが健康だと思っていない人」の背景等が明らかになっているか、また統計的な有意差があるのかどうか、教えていただきたい。

→この資料は政策企画課から提供されたものであるため、よく確認をして有意差があるのかどうか明らかにしたい。（事務局より）

・他の階層にしても、牛久市での既存の取り組みと交差して、健康や生きがいにつながっているということが出てくると、一層この協議会のインセンティブも上がるのではないか。逆に、そこまでしても、なお取り残されている人たちはどういった人たちで、そこは同じように対応するのか、個別にターゲットを決めるのか、協議会の中で検討していけたら良い。

・うしく健康プラン 21 では、市民の健康感は重要なポイントということで捉えているが、「自分が健康だ」と感じている人の割合が、健康実態調査の実績値では令和 2 年度 85.1%（うしく健康プラン 21　19 ページ）に対し、市民満足度調査の結果では同じ令和２年度で 87.6%（資料１の５ページ）となっている。健康プラン 21 には、「健康づくりの最終目標評価は健康実態調査の他、市民満足度調査を活用するなどして毎年実施します」と表記がある通り、過去の分は市民満足度調査の結果を活用していることが多い。今回のように、同じ年度でも結果にずれが生じることがあるので、採用するデータについては、ある程度統一性をもって経年変化を見ていった方か良いのではないか。

→今後、配慮していきたい。（事務局より）

②牛久市国民健康保険の医療及び健診の状況について

・糖尿病の医療費が高いことが驚きだった。また整形外科や、緑内障、白内障の受療率が高いということで、医療機関の取り組みなど牛久市の状況を反映していることを実感した。

→牛久市の受療率が茨城県より高いというのは、県北の方は医療機関が少ないのに比べ、牛久は病院やクリニックがたくさんあるので、受療率も高くなると考えられる。（委員より）

・歯科診療（医療費、受診日数）が県より上回っているということで、読み取り方について教えてほしい。（日頃から健診をするという方が含まれており、高齢になっても歯が良い状態になっているのかなど）

→牛久市の意識の高さが表れているのではないか。歯科医院の数が多いということもあると思うが、受診日数が年間３日と多いということで、歯周病等を気にして定期的に通っている方が多い、そういったことが茨城県の中でも健康余命が長いという結果に出ているのではないか。（委員より）

③健康づくり関連事業調査報告及び事業実績報告

・適量飲酒とあるが、飲酒に適量はないということが、一般的な考えとなり WHO でも言われている。適量飲酒というのがどうなのかと疑問に思った。

→新しい情報に注意して、今後改善していきたい。（事務局より）

・介護認定率と健康感において新型コロナの影響を受けて数値の悪化が見られる。本協議会が平成 18 年度にスタートしてから、コロナ前までは順調に成果が上がってきているところだったので、今後も、専門の先生の意見も聞きながら頑張っていきたいと感じた。

・もう一つ前の報告で HbA1c や BMI25 以上の方が増えているということも、新型コロナの影響ということもあるので、そのあたりも含めて取り組む必要がある。特にウオーキングなどのスポーツ担当の委員の方へも取り組みをお願いしたい。

１０．閉会